

「保健医療科学」 第53巻 第1号 予告

精神保健医療福祉（仮題）

日本医療最後の暗部に光を求めて（仮題）	長谷川敏彦
保健統計からみた精神科入院医療での長期在院にかかわる問題（仮題）	藤田利治
精神科医療の質とその向上（仮題）	伊藤弘人
施設評価の観点から（仮題）	笈淳夫
精神障害者の地域リハビリテーションの展望（仮題）	守田孝恵
触法精神障害者の現状と私法精神障害者対策（仮題）	武井満
精神保健福祉調査（平成12年6月30日）からみた日本の精神医療の現状（仮題）	竹島正
精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査からみた精神保健医療福祉の現状（仮題）	山内慶太

編 集 後 記

和光庁舎に移転してきて3度目の春を迎えようとしております。新しい体制にとまどいもある反面、刺激も多く充実した日々を送ることができていると思います。

本号では、地域における自殺の実態と予防対策が特集されました。長引く不況など、厳しい社会情勢の中で自殺の痛ましいニュースは後を絶ちません。ここでは自殺を公衆衛生の課題ととらえて議論が展開されています。とはいっても保健サイドでどれだけがんばっても、社会や経済の仕組みが変わらなければどうにもならない面が多いのもまた事実でしょう。自殺者がでるような、多くの人の命に関わる問題なのだという社会の認識が必要なのです。

私たちは日々人の健康を考えて研究活動等に関わっていますが、この努力を社会に理解していってもらう必要があると思います。例は変わりますが、少子化対策や子育て支援も、一部の関係者が取り組めばよいように言われがちでしたが、最近次世代育成支援対策推進法が成立し、すべての市町村がこの趣旨に則って取り組みを行うことが義務づけられたのは喜ばしいことです。今後も、多方面にわたる分野の連携によって問題解決に向けて総合的な取り組みが行われることが強く望まれます。

本誌の特集は毎号とても充実していると思います。これは、多くの領域の研究者が集まって研究している当院の特質によるものだと思います。私たちの研究環境は厳しくなっていますが、この良さを生かしてがんばってゆきたいと思います。このたび任期満了で、次号をもちまして編集委員を退かせていただくことになりました。長い間ありがとうございました。
(加藤則子)